土佐清水市姉妹都市友好協会

会　報 ジョン万ニュース

VOL. 5

「土佐清水市姉妹都市友好協会」会報第5号
平成17年4月15日
発行:「土佐清水市姉妹都市友好協会」
〒787-0392　高知県土佐清水市天神町11-2
TEL 0880-82-1111　FAX 0880-82-2882
e-mail : kikaku@city.tosashimizu.kochi.jp

ジョン万クイズ

1)「萬次郎ハ幼年より闊達ニテ、親の
《(イ)云う事を良く聞く　(ロ)手に逢ひ難き程の》者なり」

2)アメリカ東海岸フェアヘーブンの教室内での萬次郎の態度は
(イ)活発(outgoing)　(ロ)恥ずかしがり(shy)

3)萬次郎はアメリカ捕鯨船の船長選びでトップ投票を獲得した。
(イ)ハイ　(ロ)イイエ

4)萬次郎はアメリカに恋人がいた。
(イ)イエス　(ロ)ノー

5)萬次郎は捕鯨と砂金掘りで大金を手に入れたが、普通の漂流者のとる長崎・出島コースの中国船またはオランダ船を使わず、沖縄にボートで上陸した理由。
(イ)幕府天領の長崎は取調べ厳格　(ハ)琉球は反幕府の薩摩藩下
(ロ)半分外国的な琉球は鎖国令違反者に優しい　(ニ)鎖国日本への土産沢山

6)ペリー来航の時、日本で唯一人英語のできた萬次郎だが、スパイ容疑がかかり通訳にはならなかった。
(イ)ハイ　(ロ)イイエ

7)萬次郎が書いた本でないのは？
(イ)亜美理加合衆航海学書　(ロ)英米対話捷径　(ハ)和英通韻以呂波便覧

8)萬次郎は酒好き。
(イ)イエス　(ロ)ノー

「萬次郎ハ幼年より闊達ニテ、親の(ロ)手に逢ひ難き程の者なり」が正解で、元気で活発な普通の漁師の次男坊であった万次郎が、「アメリカ東海岸フェアヘーブンの教室内」では、「(ロ)恥ずかしがり」であったと同級生が書き残しているように、西洋社会ではシャイに見えるのが一般的な日本人。

それでも「アメリカ捕鯨船の船長選びでトップ投票を獲得した」という。国際社会で、働き者で誠実な日本人の高い評価が原点に有ることが強調された。

第4問萬次郎に恋人がいたかどうか。十四才で漂流して、沖縄に帰国したのが十年後の二十四才。

青春真っ只中。恋をしても不思議ではない。薩摩藩の取調文書の中によれば「妻トスベキ女、甚不便ニソンシケレトモ、不得止事帰国ノ心組ナシ、シカレバ　ハフ国ヲ出帆ノセツ、細々ト文シタタメ置キ、情ヲ尽シヌル体ナリ」(島津登親話ニ、萬次郎此女ノコトヲ云ヘハ、声ヲアゲ鳴キタリト)」(薩摩藩取調記録)とある。

ただ、萬次郎の孫にあたられる中濱明氏は、「絶対にいませんでした。」と主張されていたという。

第5問「萬次郎は捕鯨と砂金掘りで大金を手に入れたが、普通の漂流者のとる長崎・出島コースの中国船またはオランダ船を使わず、沖縄にボートに上陸した理由」としては、4つの選択肢全て可能性があり正解。

さて、万次郎帰国は1851年でペリー黒船来航の二年前。第6問「ペリー来航の時、日本で唯一人英語のできた萬次郎だが、スパイ容疑がかかり通訳にはならなかった」の正解は「ハイ」。現存する手紙で、幕末の賢公水戸斉彬から老中主席阿部正弘に宛てたものの中に「万次郎は彼国にて教育まで授けられ恩義あるゆえ探索方のおそれあり」と明記されているという。

第8問「(イ)亜美理加合衆航海学書」と「(ロ)英米対話捷径」が万次郎の労作で「(ハ)和英通韻以呂波便覧」は土佐海援隊の蔵版である。

第9問「萬次郎は酒好き」かの答えは「ノー」。体質的に万次郎は「甘いもの欲しがること幼児の如し」であったかもしれないが、万次郎が青年期を過ごしたニューイングランドの土地柄も無縁でないではないかという。万次郎の部屋からは、清教徒たちを乗せたメイフラワー号の到着したコッド岬が遠望でき、そこでは「上品の者、酒を嗜まず」と万次郎が伝えたようにキリスト教徒たちの慎ましやかな生活が残存していた。

土佐清水市姉妹都市友好協会ニュース

姉妹都市スポーツ交流

スポーツを通じて姉妹都市の交流を図り親睦を深めることを目的に、土佐清水市と豊見城市の少年野球チームは毎年春と夏に相互に訪問を行っております。今春は、中澤助役を団長に本市より32名が（子供達20名、監督・保護者など12名）豊見城市を訪れ『第9回豊見城市教育長杯（ジョン万カップ）少年野球交流大会』に参加しました。

４月１日に出発した訪問団一行は翌日にはジョン万次郎が帰国の際上陸した小渡海岸のほか玉泉洞、首里城を見学するなど文化・社会学習を行った後、農協ホールにおいて開催されたに歓迎交流会では心温まる大歓迎を受けました。

３日には『第9回豊見城市教育長杯（ジョン万カップ）少年野球交流大会』が開催され、本市より2チームが参加。計8チームで熱戦が繰り広げられました。

大会終了後、高安家を訪問し沖縄での万次郎の生活について学習。翌4日、豊見城市長表敬訪問を行い４日間の全日程を終え本市に帰って参りました。

４月６日に市役所において開催された報告式では、子供達から『野球の試合は負けたけど沖縄に友達がたくさんできた。４日間ですばらしい体験をすることができた。これから今回体験したことを大切にして頑張っていきたい。』と力強い報告がありました。

第９回豊見城市教育長杯（ジョン万カップ）少年野球交流大会結果（平成１７年４月３日　瀬長島球場）

参加チーム

①ブルーマリンズ
（土佐清水市交流団）
②ブルーウィングス
（土佐清水市交流団）
③上田ファイターズ
（豊見城少年野球・上田クラブ・宜保ウィングス）
④伊良波タイガース
（我那覇少年野球・伊良波オールマリンズ）
⑤とよみヤンキース
（高安ジャガーズ・根差部ベースナイン）
⑥座安マリナーズ
（与根GMC・翁長・保栄茂少年野球）
⑦豊見城ドジャース
（豊見城カープ・豊見城ドリームズ・豊見城パワーズ）
⑧長嶺オールスターズ
（長嶺ベースボールクラブ・嘉数少年野球）

予選リーグ

伊良波タイガース	５－０	ブルーウィングス	豊見城ドジャース	６－１	ブルーウィングス
座安マリナーズ	０－０	豊見城ドジャース	座安マリナーズ	１１－２	伊良波タイガース
ブルーマリンズ	０－０	上田ファイターズ	ブルーマリンズ	０－０	長嶺オールスターズ
長嶺オールスターズ	５－０	とよみヤンキース	上田ファイターズ	０－２	とよみヤンキース

決勝トーナメント

１位2位決定戦	長嶺オールスターズ	５－１	座安マリナーズ
３位4位決定戦	豊見城ドジャース	３－２	とよみヤンキース
５位6位決定戦	伊良波タイガース	４－２	ブルーマリンズ
７位8位決定戦	上田ファイターズ	１－０	ブルーウィングス

清水高校生姉妹都市派遣事業

清水高校生の米国姉妹都市への派遣は学生の国際意識の向上と姉妹都市並びに姉妹校との友好を深めることを目的に毎年実施しています。

平成16年度は夏季事業として清水高校生7名と引率教師2名、計9名が派遣され平成16年8月13日～27日の日程で姉妹都市交流ホームステイが行われました。

引き続き春季事業として、平成17年3月12日～27日にかけて清水高校生4名と引率教師1名、計5名が派遣され現地でホームステイをしながら、ジョン万次郎縁の各所を訪れるとともに姉妹校との交流を深めました。

平成16年度　姉妹都市交流ホームステイ参加者

・夏季事業

清水　優里	（1年）
西原　夢来	（1年）
奥宮　桃	（2年）
小谷　まい	（2年）
吉村　美郷	（2年）
松下　友香	（2年）
岡田　夏季	（2年）
上田　有紀	（教員）
大島　香	（教員）

・春季事業

松村　明香	（1年）
林　園子	（1年）
佐井　英里佳	（2年）
松下　季実	（2年）
森下　邦暁	（教員）

第10回ジョン万祭開催日決定

ジョン万祭は、14才で漂流した万次郎がアメリカの捕鯨船ジョン・ハウランド号に救助されたのち、ホイットフィールド船長の好意によりフェアヘーブンで勉学に励み、捕鯨船で乗組員として活躍するまでの青年期を過ごしたことを記念しフェアヘーブンの人々が日本の文化の紹介や日米の友好・交流を目的として、2年に1回開催しています。

今年で10回目の開催を迎えることとなるジョン祭りは平成17年10月1日にフェアヘーブンで開催されることとなりました。

今回も土佐清水市より市長のほか一般の参加者を募集し訪問団を派遣するため、事務局ではこれから準備を進めて参ります。

今後のスケジュール

4月～7月 総会での予算案承認
　　旅行会社の選定
　　（日程内容、料金など決定）
　　市広報に一般参加者募集記事掲載
8月中旬　募集締め切り
　　（参加者決定）
8月下旬　参加者事前説明会開催
9月中旬　ツアー代金の納入（事務局へ）
9月29日　出発

第９回ジョン祭りにて

ジョン万次郎関係書籍の紹介

中濱　万次郎

ー「アメリカ」を初めて伝えた日本人ー
中濱　博　著
冨山房インターナショナル版　　定価　2，940円

　万次郎直系四代目である中濱　博氏が、日記や手紙、公式記録などをもとに新事実・新発見資料を加えて丹念につづり、書き上げた伝記です。
　漂流者、万次郎が帰国後、アメリカの文化を鎖国中の日本でどのように伝えたか。坂本龍馬はじめ開国に活躍した人物たちに、どんな影響をもたらしたか。興味深い事実が次々と明らかになっていきます。
　開国150年という節目の年に、万次郎の業績を捉え直し、正しい人物像に迫りました。子孫にしか語れない、知られざるエピソードがいっぱいの一冊です。

黒船異聞

ー日本を開国したのは捕鯨船だー
川澄　哲夫　著
有隣堂版　　定価　1，785円

　19世紀前半、日本近海には数百隻の異国の捕鯨船が押し寄せていた。ペリー来航は、それらの捕鯨船員の要求や、難船して太平洋をただよう漂流民の存在を背景に実現した。
　本書は、アメリカ捕鯨業の発展から説き起こし、ペリー艦隊が訪れた久里浜・横浜・下田・函館における彼らの足跡を明らかにしながら、豊富な史料と図版を用いて、日米の異文化体験をつづった歴史ノンフィクション。
　日本の開国に重要な役割を果たした漂流民・万次郎、横浜応接所の警護にあたった佐久間象山、密航を企てて失敗した吉田松陰、オランダ語通詞の森山栄之助、アメリカ側通訳ウイリアムズ、さらに艦隊員と気安く付き合う庶民などを浮き彫りにし、ペリー来航の具体像を余すところなく描き出す一冊です。

＊いずれも土佐清水市立市民図書館で貸し出ししております。